第３学年　英語科　学習指導案

新居浜市立中萩中学校
教諭　楮野　さおり

１　単元名　　Our Project 8 「レストランにＳＤＧｓの取り組みを提案しよう」

２　単元の目標

○　ＳＤＧｓや地域の課題（食べ残し、外国人対応など）について理解し、それらに関する語彙や表現を理解し、適切に使用できる。（知識・技能）

○　外国人の視点と地域課題を踏まえて、提案や紹介を英語でわかりやすくまとめることができる。（思考・判断・表現）

○　自分たちの暮らす地域とＳＤＧｓのつながりを理解し、持続可能な社会づくりに主体的に関わろうとする態度を育む。（主体的に取り組む態度）

３　単元について

⑴　教材観

本単元では、生徒が自分たちの生活に身近な「飲食店」を題材に、ＳＤＧｓの視点から地域の課題を捉え、英語を用いて改善策を提案する学習を行う。この教材は、生徒の生活実態と地域の課題を直結させることができ、英語科における実践的な言語活動とＥＳＤの視点を融合させた単元である。

本教材は既習事項を統合的に運用することを促す教材である。現状説明では受動態や現在完了形、提案理由の提示では接続詞・不定詞、改善案の説明や具体化では後置修飾や関係代名詞を自然に必要とする。単なる文法の復習ではなく、英語を使って「わかりやすく、説得力をもって」伝える際にどの文法を選ぶと効果的かを考える教材である。

また、本教材は地域課題とＳＤＧｓの関連性を実感を持って理解できる教材である。市の「おいしい食べきり運動推進店」が校区に一つも存在しない現状や、地域に住む外国人が飲食店で直面している困難など、生徒の生活圏にあるリアルな課題を扱うことで、食・環境・多文化共生・地域社会など複数の視点を統合して問題を捉えるＥＳＤの学びが可能となる。

さらに、生徒は「自分たちが地域のために何ができるか」という視点で学習に向かい、多様な制作物から選択して学習することにより、個々の興味や強みを生かした学びができる。探究的かつ共同的な活動が組み込まれており、主体的に学習に取り組むことができる。

⑵　生徒観

本学級の生徒は、英語の基本的な文法事項や語彙の定着が十分とは言えず、英語そのものに対しては苦手意識を持っている。しかしながら、間違えることを過度に恐れる様子はなく、活動には積極的に参加しようとする前向きな姿勢が特徴的である。これまで協同学習を継続的に行ってきたことから、班活動では互いに助け合いながら取り組むことが自然と行われ、安心して発言したり、意

見交換したりする雰囲気が形成されている。また、社会的課題や実生活に関わる話題には関心を示す生徒が多く、地域の出来事や新居浜市の取組について知ると、自分事として考え始める姿が見られる。

本単元では協働を基盤にしながら、既習事項を「伝えたい内容をより分かりやすくするためのツール」として扱うことで、英語への苦手意識を軽減し、自らの考えを英語で表現する意欲と自信を高めることが期待できる。

⑶　指導観

本単元では、既習の文法事項を実際のコミュニケーションに活用させながら、ＳＤＧｓの視点に基づいて地域の飲食店に提案する学習を行う。そのため、既習事項の「使い方」を学ばせる指導を重視する。生徒はすでに多くの文法事項を学習しているが、それらを状況に応じて選び、効果的に使う力は十分に身についていない。「何を伝えたいか」に応じて必要となる表現が異なるため、文法を改めて説明するのではなく、活動中に適宜フィードバックを行う。実践的な文脈の中で文法指導を行い、理解を深めたい。

次に、探究的な学びを中心とした指導を行う。飲食店経営者からのビデオメッセージやＡＬＴなどの地域に住む外国の人々へのインタビューを通して、生徒が自ら課題を発見し、情報を整理し、ＳＤＧｓの視点から改善策を考え英語で提案を行うという探究の流れを重視する。答えを提示するのではなく、「どの課題が一番重要か」、「誰に向けた提案か」、「ＳＤＧｓのどのターゲットと関係するか」など事項を深めるという問いを投げかけ、生徒の学びを支援する。

そして、地域社会と学びをつなぐ指導を行う。完成した提案を地域の飲食店や市の担当者、地域に住む外国人に届けることで、生徒のアウトプットが社会に役立つ経験を提供する。これにより、生徒は「学習が社会とつながる」実感をもち、主体的に行動する態度を育む。

⑷　ＥＳＤとの関連

・本学習で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

連携性…地域の飲食店や外国人の声を踏まえ、多様な視点からアイデアを出し合い、班で一つの提案をまとめる活動を通して、地域と連携しながら課題解決に取り組もうとする態度を育成する。

責任性…自分たちの身近な社会に存在する問題を「自分ごと」として捉え、自ら行動することが大切であると考えることができる。

・本学習で育てたいＥＳＤの資質・能力

コミュニケーションを行う力

グループ内での議論や、最終的な英語でのプレゼンテーションを通して、自分の考えを明確に伝え、他者と相互理解を深めることができる。

進んで参加する態度

地域のレストランの課題を「自分ごと」として捉え、具体的な提案をすることで、地域社会の

一員として課題解決に積極的に参加する態度を育むことができる。

・本学習で変容を促すＥＳＤの価値観

人権・文化を尊重する。（文化多様性の尊重）

外国の文化・言語背景を尊重し、だれもが安心できるレストランを作ることを提案する。

自然環境・生態系への保全を重視する。

「おいしい食べきり運動推進店」の PR を外国人に紹介したり、環境に配慮した取組を調べたりする活動を通して、持続可能な社会には環境保全が不可欠であるという価値観を育む。

・達成が期待されるＳＤＧｓ

目標 10：人や国の不平等をなくそう

目標 11：住み続けられるまちづくりを

４　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習取り組む態度
①既習の言語材料の意味や働きを理解している。 ②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や絵などを用いてそれらを関係づけながらまとめる技能を身に付けている。	①地域の外国人や飲食店の課題を正しく理解し、ＳＤＧｓの視点で課題を分析して解決策を考えている。 ②外国人の視点と地域課題を踏まえて、提案や紹介について英語を用いてわかりやすくまとめている。	①班活動に積極的に参加し仲間と協力して学習に取り組んでいる。 ②地域課題や外国人の困りごとに関心をもち、自分事として考えようとしている。

５　単元の指導計画（全５時間）

時	学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	○今まで学習してきた内容がＳＤＧｓのどれに当てはまるか、班で話し合う。	・ＳＤＧｓについての動画を見せて考えるよう促す。	△ウ①
	○新居浜市の取組「おいしい食べきり運動推進店」について紹介する。	・「どんな取組か」「なぜ校区に推進店がないか」と問いかけ地域課題を自分事として捉えさせる。	△ウ②
	○教科書のモデルディスカッションを読む。	・既習文法の確認をしながら話合いに必要な表現を確認させる。	△ア①

2	○飲食店経営者の方からのビデオメッセージを視聴し、経営側が直面する課題を知る。 ○ＡＬＴから困りごとをインタビューする。また、地域在住外国人のアンケートデータを読みとき、課題の把握をする。 ○聞き取ったことを簡単な英語でまとめ、地域の課題とＳＤＧｓのどの目標につながるか班で分析する。	・課題を食・環境・多文化共生などの視点から整理するよう促す。 ・インタビュー前に、ＳＤＧｓとの関連を意識して質問内容を練るよう指導する。 ・情報整理の際に単なる羅列ではなく、関連付けながらまとめさせる。	△ウ② △ア① △ア②
3	○個人で解決策と提案の方向性を考える。 ・誰に、何を、どう提案するか ○班で提案内容を決定し、制作物の役割分担を行う。	・課題分析の結果を踏まえ、最も重要な課題をどれにするか問いかける。 ・「どの文法を選べば効果的か」を考えさせるフィードバックを適宜行う。	△イ① △ウ①
4	○提案内容（案内カード、ポスター、ＰＲ動画など）を英語で作成する。 ○班内で提案内容の発表練習を行う。	・作成中、提案理由、現状説明、改善案の説明を適切に行えているか、個別指導で確認する。 ・相手にわかりやすく伝える工夫（アイコンタクト、ジェスチャー等）を指導する。	△ア② △イ②
5	○班ごとに英語で提案内容を発表する。 ○活動全体を振り返る。	・外国人の視点と地域課題を踏まえ、英語を用いてわかりやすくまとめているか評価する。 ・完成した提案内容を飲食店や新居浜市国際交流協会等に後日配布する。 ・ＥＳＤの視点やＳＧＤｓとの関連について学びの変容を言語化させる。	△イ②